

審査の結果の要旨

氏名 葉俊麟

葉俊麟による本論文は、これまで体系的に理解されていなかった、台湾の伝統建築に利用される左官装飾について、その材料、技芸、そして、職人の系譜について、文献史料、インタビュー、フィールド調査によって、その実態を明らかにし、今後の継承への提言を述べたものである。

現在、高齢となった職人達の技芸を継承する者は絶え、多くの優れた作品も寺院の改築によってほとんどが破壊されたために、完全な形で50年以上保存されているものは稀な例となっている。伝統文化の消失は我々の考えているよりもずっと速く進行しており、それは時間との競争でもある。以上のような問題意識に基づき、本研究では、以下の事柄を明らかにすることを目的としている。すなわち：①台湾近代における「左官装飾技芸」は、どのような条件で流入・発展し、どのような特徴をもっていたのか、②日本統治時代に日本から伝わった左官技術は、どのような影響をもたらしたかの二点である。

本論文は、台湾文化財における左官装飾の修復工事に関する基礎研究を確立した点に大きな意義がある。また、本論文は、台湾の寺院、古民家、歴史的建造物及び文化財の保存修復工事に関する修復技術や歴史考証、保存理論など、実際の修復に有効な参考資料としての意義が期待される。このように論文の意義は明確に示されていると言える。

台湾左官装飾における研究成果として、本研究で主に扱うのは、「技芸（美術工芸にかかる技術）」であるが、適宜「職人（伝承、事跡）」と「材料（作品）」を加えて比較検証している。そのことによって、台湾左官装飾技芸やその材料の転変に関する歴史的展開の過程を明らかにすることを目指している。そして、技芸と材料の観点から言えば、本研究で明らかにしたことは以下の通りである。①台湾左官装飾の技芸と材料の解明、②台湾左官装飾の「形式と作法」に基づく類型（「土糊（鏤絵/泥塑）、人造石塗、剪粘、交趾焼」の四類型）、③台湾伝統的な左官装飾工具と左官装飾工程図説の発掘、④現代左官装飾技芸の創新と新材料の試みの解明、⑤台湾寺院の重要な左官装飾作品の発見と記録の5点である。以上、今後台湾の伝統建築研究はもとより、寺院や文化財の保存修復の際に、左官装飾作品の材料や年代や特徴などを判別する上で貢献するものと考え、それゆえ研究意義を有する貴重な成果となっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。